
リリカルなのは 革新者と魔法少女

zerosystem?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは 革新者と魔法少女

【Nコード】

N8494Z

【作者名】

zerosystem?

【あらすじ】

ある宙域で調査を行っていた刹那・F・セイエイは異世界に来てしまう。そして刹那は少女たちと出会い、彼女たちの運命を変革させることができるだろう!?

プロローグ

ELSとの対話から50年が過ぎようとしていた
人類は着々と変革していき、『イノベーター』の人口が増えていく
そして、現在人類初の『純粹種のイノベーター』として変革し、E
LSの一部と融合した『ダブルオークアンタ』のガンダムマイスタ
ー、刹那・F・セイエイは愛機を宇宙で走らせていた
なぜかというところ、先程ヴェーダ（ティエリア）からの情報で未確認
の何かを発見したらしい

「（反応ポイントはこの辺のはずだが…）」

だが、見る限りは特にこれといったものはなく、デブリしか見えない

「ここに何かがあるんだ？」

そのまま前進させる

センサーには何も引つかからず機体の駆動音と操縦レバーの音しか
耳に入っていない

「一旦もどるか…」

そして機体を反転させようとする

「くっ！動かない!？」

クアンタが勝手に前に前進するのだ

しかもさっきまでは何もなかったのにいつの間にか白く輝く空間が
目の前に広がっていた

量子ゲートとはまた別のゲートにクアンタは突入しようとしていた

「うわああああああああああっっっ!!!」

そして刹那の意識はそこでブラックアウトしてしまった

トレース開始

- GNT 0000、GN 0000+GNR 010 投影開始
『QUANTAMSYSTEM』、『RaiserSYSTEM』
、 『TRANS AMSYSTEM』 投影開始

刹那が気絶しているときにクアンタのタッチパネルにこんなのが映し出されていたのは誰にも分からない

プロローグ（後書き）

感想などを待っています

革新者と魔法少女

「こ…こは「気がつきましたか?」!」

刹那が目を覚まして最初に見たものは青白い癖っ毛の長髪にエメラルド色の瞳をした少女であった
容姿はどこかフェルトに似ていた
フェルトでなかったことにどこか残念だったのは秘密だ

「お前は…?」

「私はMS『ダブルオークアンタ』だったものです」

「なにっ!?!」

刹那は飛び起きた
あまりのことに驚いたようだった

「あの時のことを覚えていますか?」

「…ああ」

「あの量子ゲートに似た空間に突入したときのことは刹那様は気絶してしまいが、あの時にあの空間のエネルギーが私の姿を変えたようなんです」

「そうか…」

「でも私はよかったと思います」

「?なぜだ?」

「今まで私は刹那様と戦っていましたが、こうして話すことはできませんでしたから」

「クアンタ…」

「だから私はこの姿になれてよかったですよ」

「フツ、そうか」

刹那は安心したような表情を見せる

クアンタはそれを見て顔を少し赤くして微笑む

「しかしここはどこだ?地上のようだが…」

刹那たちの周りは木々が連なっており、どこかの森のようだった

「私には…すみません」

「気にしないでいい。お前が悪いわけじゃない」

「く / / /」

クアンタは刹那に頭を撫でてもらって気持ちよさそうに目を細める
そうしているときに空間が変わっていたというより色が変わった

ニヤアアアアアアアアア

突如猫の鳴き声が聞こえてきた

二人はある方向を見ると、そこにはとてつもなく大きな猫がいた

「猫か？」

「猫ですね」

すると、

ニヤアアアアアアアアアアアアアアアア！！

猫に何か当たり、倒れてしまった

「！なんだ！？」

「これは、あそこに魔導師がいる！？」

刹那はクアンタが言っていることが分からずにいた

「刹那様！」

クアンタが刹那の手を取る

「『セットアップ』と言ってください！」

クアンタが必死になっているのを刹那は察した

「了解！『クアンタ』セットアップ！」

そして二人の体が青白く光り出す

光が二人を包み込んでいき、刹那の服装が変わっていく
ソレスタルビーイングの制服から変わっていき、青を基準としたジ
ヤケットに腰には二本の剣、右手に折り畳まれた大剣が付いた三射
口のライフル、そして一番の特徴は背中についた二枚の両翼から放
出されている青白い粒子

そう、この姿は自分をイノベーターとして覚醒させた機体
刹那はその機体の名前を呼び、飛翔する

「『ダブルオーライザー』、刹那・F・セイエイ、出る！！」

『GN粒子』を放出してあの猫のもとへと飛んでいく刹那
ツインドライヴなのでスピードは速い

あっという間に目標に到着して、刹那は下の光景を見る

そこには黒いマントを付け黒い杖を持った金髪のツインテールの少
女と倒れている白い服の茶髪のツインテールの少女がいた

猫はいつの間にか居なくなっていた

金髪の少女がその場を離れていった

刹那は金髪の少女の方へ飛んでいった

金髪の少女、フェイト・テスタロッサはジュエルシードを手に入れ
たので家に帰宅途中であった

(アルフ、ジュエルシード確保したよ)

(さっすが私のご主人様だね)

フェイトはアルフという者と念話で会話をしていた

(もうすぐ家に帰るからね)

(ああ。飯　よう　て　・　よ)

(アルフ?)

フェイトは急に念話ができなくなったことに不安の色を隠せずに行った

「どうしたんだろう?。」

すると、フェイトの上から青白い粉が舞ってきた
まだ時期は冬ではないから雪ではない

「なんだろう?。」

その粉でフェイトは心が温かくなっていくのを感じた

「お前の目的はなんだ?。」

「!。」

フェイトは上を見ると、そこにはウェーブがかった黒髪に青い服で
腰には二振りの剣と右手についた折り畳まれた大剣
そしてさっきフェイトが見た青白い粉を放出している背中についた
青い二枚の翼

フェイトはそれを見て心の中で綺麗と思っていた

「何者ですか?。」

すると、粒子の放出量が上がり刹那は一時的にパワーを上げる

「キャッ！」

フェイトはパワー負けをして後ろに吹っ飛ばされる

すぐさま刹那はGNソード？をソードモードからライフルモードにする

フェイトに向かって一発放った

「このくらい！」

だが、それをフェイトは躲す

すると、バルディッシュの形態が変わり、フェイトの周りに黄色い玉が四発現れる

『フォトンランサー』

「ファイア！！」

四発は刹那に向かって飛んでいく

「遅い！」

だが、刹那はそれを前進しながら避ける

ライフルモードからソードモードに変えて刹那はフェイトに接近する

「くっ！」

フェイトはそれを横に避ける

すぐさまバルディッシュを振り上げて、刹那に振り下ろす

「ちいっ！…やるかよっ！」

「えっ！？」

フェイトは当たると思っていたが、刹那はそれを体を捻って回避する
だが、フェイトはそれを考えておらず振り下ろしたことで隙ができ
てしまった

それを見逃す刹那ではない

「終わりだ」

GNソード？をフェイトの首元の1cmのところではめる

刹那は別に殺すことや倒すことを目的を持っておらず、ただ目的と
あの白い服の少女のことを聞きたかっただけなのだ

「はい…」

フェイトもバルディッシュを小さい黄色い三角形に戻した

「お前の目的はなんなんだ？」

フェイトに問う

「…母さんのため。母さんの願いのために私は『ジュエルシード』
を集めているんだ」

「そっか…なら俺も手伝おう」

その発言にフェイトは驚いていた

「そういうのは一人でも多いほうが効率がいい」

「でも…」

刹那はフェイトの頭に手を置く

「あ…」

「お前はそれを悪用しないなら、信用できる」

「…ありがとう／＼／」

顔を赤くするフェイト

刹那は、風邪か？と思っていた

『（刹那様、少し鈍いのではないのでしょうか？）』

心の中でそう思った刹那のデバイス

「私はフェイト、フェイト・テストロッサだよ。よろしくね刹那」

「ああ。よろしく頼むフェイト」

名前を呼ばれて少し恥ずかしかった一人の少女がここにいたとかい
なかつたとか

革新者と魔法少女（後書き）

感想待ってます

主人公&デバイス設定(前書き)

狙い撃つぜ!!

主人公&デバイス設定

主人公&デバイス設定

主人公：刹那・F・セイエイ

容姿：銀色ではなく元の黒髪と褐色の肌
あとは劇場版と同じ

魔力ランク：AAA+

性格：前は自分の能力の影響で仲間とは距離を置いていたが、EL
Sとの対話とマリナと分かり合うことができ吹っ切れた

バリアジャケット：青いジャケットに背中には青い二枚の翼
武器はダブルオーライザーと一緒

デバイス：クアンタ

性別：女

身長：163cm

縮めばリインフォース?と同じくらい

体重：**kg

容姿：セカンドシーズンのフェルトと瓜二つ

違いは青白い髪とカチューシャをつけていないところ
体もほとんどそっくり

魔力ランク：A A

性格：誰にでも優しい

好きなもの、こと：刹那、刹那に頭を撫でてもらうこと、刹那の髪の毛、というか刹那に関して

嫌いなもの、こと：刹那と離れること、刹那と仲間が傷つくこと

単体でも戦闘可能だが、それは刹那が戦闘不能のとき

主人公&デバイス設定(後書き)

わからない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8494z/>

リリカルなのは 革新者と魔法少女

2011年12月27日01時50分発行